

鳥取県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

エコツーリズムやグリーンツーリズムなど環境に配慮した観光客の受け入れ体制の整備と併せて、e-モビリティ等の普及促進を図り、電欠の不安を感じないインフラ整備を目指す。合計500カ所以上が目標。

# EVの特性を最大限に活用して鳥取県民の日常の交通手段として定着させたい



上:鳥取駅から徒歩1分という利用しやすい場所にあるカーシェアリングのスポット 下:会員カードでリアウインドをタッチするとドアが開閉するシステムを、智頭石油が独自に開発した

## 現状

### 充電器は全国上位の水準

2010年7月に米子市に誘致したEV製造工場でのEV製造がまだ試作段階のため、2013年3月末時点のEVの普及台数は252台(PHVの台数は不明)。急速充電器の設置状況は33基となり、対人口比での急速充電インフラの整備率は全国上位の水準。

## 目標

### 2015年度までに3000台

2015年度までの短期目標として、県内で3000台のEV・PHVの普及促進を目指す。急速充電器の設置については特に目標数を定めていないが、自治体や事業者に対して充電器本体と工事費への県による助成を行うことで、整備の促進を図る。

Condition

Target



レンタカーの充電時にも使える鳥取市営駐車場にある無料の急速充電器。30分以内に出庫すれば駐車料金も無料

たクレジットカードで決済され、支払いはあらかじめ登録したクレジットカードで決済される。利用料金は15分200円〜24時間4300円と細かく設定され、支払いはあらかじめ登録したクレジットカードで決済する

## 民

給油も不要で手軽に使えるEVカーシェアリングや環境にも優しいEV公共交通の導入を推進

間事業者によるEVを活用した取り組みとして注目されるのが、智頭石油が2013年5月に始めた、EVによるカーシェアリングだ。会員は携帯やPCから予約を入れてEVが置いてある駐車場に行き、会員カードで車のドアを開けてから車を利用する。利用後は同じ駐車場に車を戻し、ドアを閉めて充電器をつなぐというのが基本的なシステム。会員カードによるドアの開閉や各種データの管理には、同社が独自にシステム開発した車載器やカードリーダーが使われている。利用料金は15分200円〜24時間4300円と細かく設定され、支払いはあらかじめ登録したクレジットカードで決済する

鳥取県西部にある大山町では、2012年3月に廃止した町営の巡回バスに代わる公共交通として、1時間前までに電話で予約してから乗車する、いわゆる「デマンド方式(予約型乗合方式)」のEVタクシーを導入した。EVは5台あり、運行は町内のタクシー事業者に委託。町内168の集落に379カ所の「乗り場」を設定し、医療機関やスーパーマーケット、グラウンドゴルフ場など80カ所の「目的地」まで、集落発7便、目的地発8便を設定。1回につき500円で誰でも乗車できる。車両をEVにしたのは、大山という自然の豊かな場所にあふさわしい車というのが最大の理由で、大山町は鳥取屈指の充電インフラ設置数(急速充電器3カ所、普通充電器9カ所)を誇る。

## 今後の展望

### EV活用の裾野を拡大

急速充電器の整備率が人口比で全国トップクラスという環境を生かして、EVによるカーシェアリングやレンタカーが増加傾向にあり、EVのさらなる裾野拡大が期待できる。今後は課金に向けた新たなビジネスモデル創造のための取り組みなども行う予定。

Vision

## 利用者の視点

### EVの可能性を模索

車を所有していない通勤族や学生をターゲットにした、短時間でも利用できるカーシェアリングがユニーク。大山町のデマンド交通は、赤字の路線バスや循環バスに代わる公共交通の手段となるだけでなく、環境保護に対する意識を高める方法として注目だ。

Userseye



介護施設で働く障害者の方が通勤に利用するケースも多い「スマイル大山号」